奄美市立市小中学校学校だより　令和5年3月号

とびら島

創立147周年

ブログ　ホームページ

さようならの美しさが輝いている

校長　中山　克彦

冬の北風と春の南風とが激しくせめぎ合い入れ替わるのがこの時期だからでしょうか。その先触れの「春一番」が空と大地を駆けめぐり、時をおいて春二番、春三番と吹いて……今はもう、すっかり本当の春の訪れを感じます。なお、趣のある「春一番」の名ですが、もともと漁師の人たちが、大規模な海難事故をきっかけにライオンのように荒れ狂う春先の突風の怖さを呼んだことに始まるのだそうです。

3月14日（火）は卒業式でした。陽斗さん・海莉さんが小学校を、亮耶さんが中学校の卒業証書を凛とした姿で手にしました。陽斗さん・海莉さんは、4月から校舎こそ同じですが、2階の中学校教室で新たな学習を始めます。亮耶さんは慣れ親しんだ学舎を巣立ち、高校に進学します。しかし、八月踊り伝承会にも元気な顔を見せてくれてうれしく思うことでした。

卒業生以外の児童生徒たちも、修了式の日で各学級・担任の先生や異動する先生方とお別れします。私たち学校の職員も子どもたちや同僚にお別れをすることになります。感謝と名残惜しさが続く3月末です。

さて、「片耳の大鹿」「大造じいさんとガン」等で有名な椋鳩十先生が、長野県伊那谷に住む小学6年生だった当時の体験を語った記録に次のような場面があります。

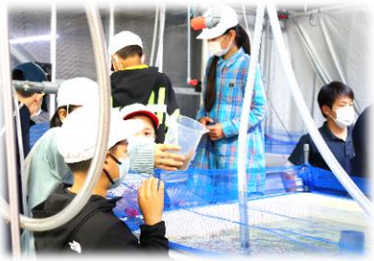
市瀬先生は、（中略）野上弥生子訳のヨハンナ・スピリの『ハイジ』を貸してくれた。（中略）
わたしは、この本を庭続きの裏山のアカマツの林で読んだ。
生まれて初めて読む本格的な児童文学であった。
読み進むにしたがって、アルプス山頂の雪のごとく、汚れのないハイジの心、アルムじいさんの男性的な渋い愛情、それに、ペーターのいかにも、山の少年らしい無邪気ないたずら、みんな、感動をもって、心に呼び掛けてくるのであった。
さらに、感動をもって、読み続けていくと、アルムじいさんとハイジがアルプスの山の岩に並んで腰かけて山の夕焼けをながめながら、
「おじいちゃん、夕焼けは、なぜこんなに美しいの。」
「うん、人間でも、自然でも、最後のお別れの言葉が、いちばん美しいものなのだ。　夕焼けはなあ、太陽が、山々に向かって、さようならのあいさつのしるしなんだよ。だから、あんなに美しいのさ。」と、話している場面にゆきあたった。
わたしは、この会話に、なんともいえない美しさを感じた。感動をもって、読み進むうちに、美しい言葉に出会ったので、その言葉の美しさが、花が咲くように、心の中に大きく開いたのかもしれない。
わたしは、感動のあまり、本を持ったまま、マツ林の中に立ち上がった。
マツ林のはるかかなたには、日本アルプスが、高く高くそびえて連なっていた。そのアルプスの峰々も、夕焼けて、赤く赤く燃えていた。（中略）
感激とともにながめる山々や、この宿場町は、いつも、習慣的にながめているのとは、全く違っているのであった。いつもながめている山が、自分の住んでいる林が、こんなに美しかったのかと、わたしは、自分ながら驚くのであった。
（理論社刊「夕やけ色のさようなら～椋先生が遺した33章～」から引用）

今、本校では「さようなら」の美しさとせつなさが……、「ありがとう」の温かさと共に輝いています。
令和4度が終わろうとしています。振り返るとただただ子どもたちのがんばりに拍手です。そして、保護者の皆様・地域の皆様の御理解と御協力に深く感謝申し上げます。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

応援

その他の活動

体力アップ！チャレンジかごしま
表彰



4月行事予定

【4 月】

6 日(木)新任式，始業式，入学式
7 日(金)身体計測
17 日(月)内科検診・結核健診
18 日(火)全国学力学習状況調査(小 6, 中 3)
21 日(金)家庭訪問
26 日(水)授業参観・学級 PTA
　　ＰＴＡ総会

様々な体験を通して
交流を深めることができました！
楽しくしめくくることができました。